

< あなたの治療について >

外科 - PTX - 乳腺 - weekly

今回の治療は、PTX という治療法で、パクリタキセル（PTX）という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は4週間が1コースとなっています。各コースの1日目と8日目と15日目に点滴を行います。この治療を4週間（28日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~7日目	8日目	9~14日目	15日目	16~28日目
①	レスタミン (711ギ-を抑える薬)	内服		お休み		お休み		お休み
②	デキサート ファモチジン (711ギ-予防・ 吐き気止め)	点滴 約15分						
③	グラニセトロン (吐き気止め)	点滴 約30分						
④	パクリタキセル (抗がん剤) 90mg/m <sup>2</sup>	点滴 約1時間						

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎起こりやすい副作用について (頻度 20%以上)

パクリタキセルによる

- 白血球数減少、好中球数減少、貧血 ●悪心・嘔吐 ●関節痛・筋肉痛 ●末梢神経障害
- 脱毛

## ◎特徴的な副作用について

### パクリタキセルにおける

#### ●過敏反応

「呼吸困難、胸痛、低血圧、頻脈、徐脈、潮紅、血管浮腫、発汗」などの症状

#### ●刺激伝導障害

「低血圧、高血圧、徐脈」などの症状

#### ●関節痛・筋肉痛

症状は一般に、投与開始後2、3日後にあらわれ、また、早期のコース(1~3コース目)より発現する傾向にあります

#### ●発熱

症状は一般に、投与開始後6~10日後にあらわれ、また、1クール目の発現頻度が高い傾向にあります

#### ●末梢神経障害

「手足のしびれ、手足の痛み」などの症状

症状は一般に、投与開始後3~5日後にあらわれ、また、使用が長期間にわたると発現頻度が高くなる傾向にあります

#### ●アルコール過敏症

この薬は水に溶けにくいいため、アルコールを使って溶かしています。注射時のアルコール消毒で皮膚が赤くなる方、少量の飲酒で顔や全身が赤くなったり、具合が悪くなったりする方はお知らせください

**\* 自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事しないよう注意すること。**

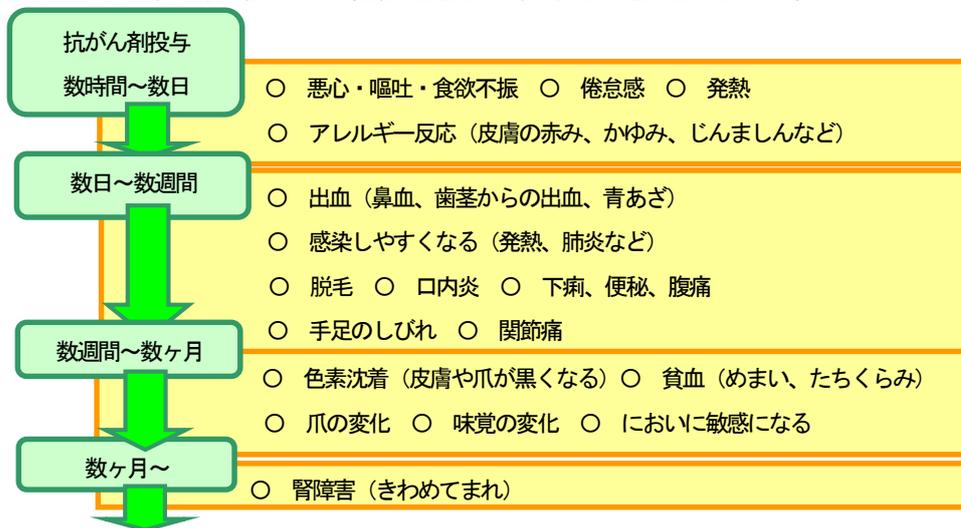
**\* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。**

## ◎副作用の発現時期の目安

\*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



## ◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎**薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）**

**まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。**

**【パクリタキセル】**

[ショック、アナフィラキシー様症状]急に呼吸が困難になる、胸痛、血圧低下、脈が速くなるあるいは遅くなる、顔などがほてる、むくみ、発汗

[白血球減少などの骨髄抑制]熱がある、さむけがする、のどが痛い、咳が出る、排尿時痛、出血しやすい、血が止まりにくい、貧血

[末梢神経障害、麻痺]手足の痺れ、服のボタンかけができない、手先の細かい作業に支障

[間質性肺炎、肺線維症]咳が続く、息苦しい、発熱

[急性呼吸窮迫症候群]急に呼吸が困難になる

[心筋梗塞、うっ血性心不全、心伝導障害、肺塞栓、血栓性静脈炎、脳卒中、肺水腫]動悸、息切れ、胸痛、息苦しい

[難聴、耳鳴]聞こえにくい、耳鳴りがする

[消化管壊死、消化管穿孔、消化管出血、消化管潰瘍]激しい腹痛、下血

[重篤な腸炎]激しい腹痛、下痢

[腸管閉塞、腸管麻痺]食欲不振、悪心・嘔吐、著しい便秘、腹痛、腹部膨満

[肝機能障害、黄疸]黄疸が出る

[膵炎]上腹部の激痛

[急性腎障害]尿が出なくなる、血尿が出る

[播種性血管内凝固症候群]手足に輪状の紅斑、発熱、下痢、やけどのような症状

[皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症]出血しやすい、血が止まりにくい

[腫瘍崩壊症候群]尿量が減る

[白質脳症（可逆性後白質脳症症候群を含む）]歩行時のふらつき、口のもつれ、物忘れ、動作緩慢などの症状

◎ **上記のほかにも副作用が現れることがあります。**

**他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。**